

【目次】

1. アーカイブ No.12
連載「日本労働会館物語」第 9 回 2010.05.18 発行の第 10 号に掲載
2. 出張講演 UA ゼンセン・コーナン商事ユニオン・執行委員会 25 名
(岡山・友愛の丘)
3. 出張講演 全日通労働組合・福岡支部・執行部役員研修会 26 名
4. 出張講演 UA ゼンセン・ダイエーユニオン・伝承塾「枝垂桜」7 名
(岡山・友愛の丘)
5. 年末年始休館のお知らせ(2023.12.28～2024.01.08)

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.12

連載「日本労働会館物語」第 9 回 2010.05.18 発行の第 10 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 9 回

<ナップとユニテリアン・ミッションーその2>

前回は米国ユニテリアン協会A.U.Aのアーサー・メイ・ナップ来日の経緯と、彼が正統派キリスト教のドグマを批判し、その非合理性や宗派性を脱した寛容性、進歩性、合理性の故に日本で歓迎されたことを記述しました。今回はナップの活動の続きとその意義についてです。

明治 20(1887)年 12 月、来日したナップは福澤諭吉の好意で彼の持ち家(東京白金)に住み、活動を始めました。ユニテリアン・ミッション(1887 年～1921)の始まりです。土屋博政慶大名誉教授はユニテリアン・ミッションの時期をほぼ四つの時期に分け、ナップが責任者であった時代(1887～1890)を第一期としています。

ナップはこの時期、福澤諭吉、徳川義礼、金子堅太郎、黒田長成、佐野常民、増島六一郎、フェノロサらの助けを受けつつ活動を続けます。彼は「日本の上流界の人々や指導的な知識人と積極的に交流し、機会あるごとにユニテリアン主義の講演」を行い、『時事新報』に寄稿し、また機関紙『ゆにてりあん』を発行しました。『日本ゆにてりあん弘道会第一回年報』は、ナップについて「交詢社を始めとし、大日本教育会に、英吉利法律学校に、慶應義塾等に於て、氏か日本に使命せし所以を伝えた」と記述しています。

こうしてナップは、瞬く間に当時の日本の上流階級・知識階級、さらには仏教徒にも賛同者を得ることに成功します。これはそれまでの正統派キリスト教宣教師が成し得なかったことです。明治政府も仏教徒もユニテリアン教が持つ「自由主義と非宗派性のゆえに、ユニテリアン

派に最も共感を持った」のでしょう。ユニテリアンの「自己信頼」(エマソン)は、福澤諭吉の「独立自尊」、仏教の「唯我独尊(かけがえのない自分)」と通底するものなのでしょう。

土屋教授は論文「アーサー・ナップと日本ユニテリアン・ミッションの始まり」の中で、ナップ来日の意義について「①宗派心のない普遍倫理に基づく“運動”としてのキリスト教を伝えたこと、②ドグマより、科学の時代に合わせた理性を強調することで、1890年代日本のキリスト教のリベラル化を推進させたこと、③寛容な精神を持って他宗教の存在意義を積極的に認めたこと、④旧態依然としていた日本の仏教界の一部に自己革新運動を起させ、キリスト教徒と仏教徒との交流と対話をもたらしたこと、⑤そして何よりも福澤諭吉に代表されるような日本の指導的知識人達に、日本の道德の担い手としてユニテリアン主義に期待を抱かしめたこと、⑥天皇制が宗教と結び付けて考えられていなかった時、金子堅太郎のような政府の中枢にいる人々をして、国民の、とりわけ有力者達のバックボーンとなる宗教として、たとえ一時期であったにせよ、ユニテリアン主義に大きな希望を持たせたことである」と、6点を挙げています。

参考文献:『ユニテリアンと福澤諭吉』・慶應義塾大学出版会、慶應義塾大学日吉紀要「英語英米文学」No.35「アーサー・ナップと日本ユニテリアン・ミッションの始まり」、「社会運動の源流、ユニテリアン」(『改革者』2009年5月号):土屋博政、『日本ゆにてりあん弘道会第一回年報』(日本ユニテリアン弘道会)

(連載第9回終り、文責:間宮悠紀雄)

2. 12月6日(水) UA ゼンセン・コーナン商事ユニオン・執行委員会 25名(岡山・友愛の丘)

12月6日(水) UA ゼンセン・コーナン商事労働組合の執行委員会25名が、講義「日本労働運動の100年余り」の初期段階と政治の必要性和公職選挙法を受講、友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の初期段階と政治との関係受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。加えて、公職選挙法について、特別講演を行った。

皆さんとっても熱心に受講し、懇談の場では多くの質問があり、知識を深めました。

3. 12月13日(水) 全日通労働組合・福岡支部・執行部役員研修会 26名

全日通労働組合・福岡支部・執行部役員研修会26名が12月13日(水)、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」と鈴木文治(人間性と職業能力の向上)・松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージなどを交えて、リーダーに必要な要件を講演した。さらに「生産性運動三原則」と「労使関係論-コーポレートガバナンス」についても講演した。とっても熱心な様子でした。

4. 12月18日(月)～20日(水) UAゼンセン・ダイエーユニオン・伝承塾 「枝垂桜」7名(岡山・友愛の丘)

12月18日(月)から20日(水)、UAゼンセン・ダイエーユニオンの伝承塾「枝垂桜」7名が、講義「日本労働運動の100年余」の初期、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。さらに、労使関係論(コーポレートガバナンス)、生産性運動三原則の原型から現在の解釈、「健全な労使関係とは何か」、「実践的なリーダーの要件とリーダーシップ論」を受講。受講後は、懇親会が開催され、一層の議論を深めた。

5. お知らせ

①友愛労働歴史館の年末年始の臨時休館日

年末年始の12/28(木)、1/4(木)と1/5(金)、臨時休館とします。

2023年12月28日(木)～2024年1月8日(月)の期間、友愛労働歴史館は休館とします。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedokishikan.com>

-----**惟一館から128年、友愛会から110年**-----